

名 称	令和4年度 第2回 目黒区障害者自立支援協議会 本会議
日 時	令和4年 10 月 14 日(金)午後6時～午後7時45分
会 場	中目黒 GT プラザホール
会議次第	1 開会 2 議題 (1)運営会議からの報告・協議事項 ①コロナ禍における当事者目線で出来る意思疎通方法の提案について ②新型コロナウイルス感染症の影響及び課題等について (2)イベント実行委員会の進捗状況について (3)区からの報告 ①令和4年度 障害者週間記念事業「めぐろふれあいフェスティバル」の開催について ②障害者計画の改定スケジュール等について ③「医療的ケア児の保育園入所に関するガイドライン」の策定について (4)専門部会からの報告 3 その他 4 閉会
出席者	委員：岩崎委員(会長)、北本委員(副会長)、新開委員、会田委員、三木委員、池田委員、阿部委員、徳永委員、松原委員、野村委員、江見委員、岸井委員、白鳥委員、田村委員、橘委員(保健予防課長)、田中委員(障害施策推進課長)、岩谷委員(障害支援課長)、大塚委員(子育て支援課長)、山内委員(教育支援課長) その他区職員：竹内(健康福祉部長)、田邊(健康福祉計画課長)、浅野(身体障害者相談係長)、石田(知的障害者相談係長)、田所(精神・難病係長)、長谷川(発達支援係長) 事務局：小野(計画推進係長)、塩屋・村野(計画推進係)、盛岡・横川(基幹相談支援センター)
欠席者	町田委員、白濱委員、渥美委員、征矢委員、田島委員、重盛委員、河手委員、本間委員
配布資料	資料1：コロナ禍における当事者目線で出来る意思疎通方法の提案について 資料2：新型コロナウイルス感染症の影響によるアンケート調査 資料3：イベント実行委員会の進捗状況 資料4：令和4年度 障害者週間記念事業「めぐろふれあいフェスティバル」の開催について 資料5：障害者計画の改定スケジュール等について 資料6：「医療的ケア児の保育園入園に関するガイドライン」の策定について 資料7：専門部会からの報告事項 参考資料1：目黒区障害者自立支援協議会設置要綱 参考資料2：令和4年度障害者自立支援協議会委員名簿 参考資料3：令和4年度 第2回目黒区障害者自立支援協議会席次表
会議内容	1 開会 委員長より開会あいさつ。 相談支援部会長の山本委員から自立支援協議会委員の退職願が提出された。後任の委員は相談支援部会と協議している。 事務局より配布資料確認。

## 2 議題

### (1)運営会議からの報告・協議事項

#### ①コロナ禍における当事者目線で出来る意思疎通方法の提案について(資料1)

意思疎通支援部会 江見委員より資料1に沿って説明を行った。

#### 会長

意思疎通支援部会からの提案について、何か質問や意見はあるか。次はコロナウイルス感染症の影響について話をする。その中で先ほどの提案についても意見を頂戴するということでもいいか。

#### ②新型コロナウイルス感染症拡大前と現在(資料2)

#### 高齢化・グループホーム対策部会 (資料2なし)

部会が始動しはじめた状況であり、アンケート報告のとりまとめができていない。

#### 一般就労部会

資料2に沿って説明を行った。

#### 施設就労部会

資料2に沿って説明を行った。

#### 子ども部会

資料2に沿って説明を行った。

#### 意思疎通支援部会

資料2に沿って説明を行った。

#### 相談支援部会

事務局から資料2に沿って説明を行った。

#### 会長

委員の方から、意見を伺いたい。コロナ禍における、障害のある方への対応で注意する点や、解決策等、情報の共有をお願いする。

#### 副会長

コロナ禍によって出たくても出られない利用者に対して代替措置としてのオンラインを活用した支援を行った際に、事業所への報酬として認められているのか知りたい。

#### 委員

オンラインにおいての在宅支援という形になる。コロナ禍において障害福祉の報酬について、電話や訪問などの支援の中にオンライン等も当然含まれる。行った支援を実績記録票等に残せば報酬として算定ができる。各支援事業所で工夫し、支援が行われていると認識している。

#### 会長

地域生活支援拠点の方から感じたことは何かあるか。

#### 委員

拠点でもコロナに関連して通所できないという相談を受けたことがある。緊急での短期入所の利用を受けたこともある。コロナ禍による家庭の事情で、当事者の方の居場所を提供してほしいという相談もいくつか来ている。コロナ禍の影響を感じながらも、拠点ではできることをやっている。

#### 副会長

意思疎通支援部会からの資料1による報告があったが、今年法律ができ、この情報保障が大きな問題になっている。コロナによってますます情報保障が難しくなっている。この状況を逆手に取れば、地域の方に大変さを伝えるいい機会になる。地域の方に視覚障害者や聴覚障害者のアプローチ方法を

啓発する機会ととらえたらいいのではないか。以前山田会長を中心に障害別の関わりかたの冊子を作成した。そういったものを活用し地域の方に再度伝えるチャンスとしたい。

**委員**

非常に理解できる。視覚聴覚障害者の現状を地域の方に解って欲しいという思いがある。当事者からも、いまの状況を分かってもらいたいという声もある。

**委員**

懇話会で「わかってください」を発行、編集していた。しばらく発行休止していたが、今年度、来年度に改訂し、内容を深くしたいと考えている。子どもにもわかり易い内容にしたい。

**委員**

一般就労部会は少し視点が違い、コロナで大変な状況もあるが、結果的にリモートによる相談が増え、企業が採用面接をリモート実施することが多くなった。パソコン操作ができる利用者は積極的にリモートを活用している。コロナ禍での一つのメリットであり、企業との関係では避けられない仕組みになってきている。

**会長**

リモートを活用できる方たちがいる一方、パソコン環境がない方と、格差が目立ってきたように思う。

**副会長**

大学で就職支援を行っているが、コロナ前提のオンラインを活用した就職活動ができるように学生のサポートをしている。各事業者の方がオンライン対応のスキルが民間企業と同列になっているのか、区も事業所へのオンライン支援が必要であると思う。

**委員**

コロナの感染拡大当初は事業所の活動も休止し利用人数の制限をしていたが、コロナの状況も変化し、活動をどう戻していけるのかを模索してきたなかで、職員間でも考えに違いがあり再開するタイミングが難しかったと感じている。今後、ウィズコロナの時代ということで、活動もいろんな形になると思うが、活動に来られない利用者が未だにいる中、その方への支援をどうしていくか、オンラインの活用等、今後に向けて、どう感染対策をして、普通の活動を維持していくのかというのが、大きな課題だと感じている。

**会長**

事業所に来られない孤立している当事者や日常的にアウトリーチしていない方にどうアプローチするのか難しい。入所施設はどうか。

**委員**

8月に入所利用者がコロナに感染し、職員も感染者がでた。入所利用者全員には感染拡大しなかったが、収束までに1ヶ月ぐらいかかりその間の感染した利用者への対応等、現場職員に負担を要する場面が多かった。

**委員**

コロナが長引く中でハイブリッドやオンラインの対応に慣れてきたと感じている。コロナ禍での感染予防で休んでいた方もいたが、2週間前にほぼ0人になり、作業学習等を再開できるようになった。保護者の学習見学では予約制にして30人の入れ替え制で対応した。そういったノウハウが身についてきている。

**会長**

学校のほうがオンラインに関しては、福祉現場より進んでいる印象をうけた。対応に苦慮していると

は思うが行政のオンラインの現状を教えてください。

**委員**

他の自治体と会議はオンラインでしているが、対面とは違い考えを伝えるということが、オンラインでは難しい面もある。サービスを受けている方と関わることがあるが、オンラインだけでの相談では対応できないケースもある。

**会長**

対応が事業所、または個人差によっても異なっているのではないと思う。そういう相談も行政の方に入と思うが、目黒区として実施していることがあれば教えてほしい。

**委員**

通所施設等の在宅支援の関係については、今現在も状況継続なので、事業者から、最近ではコロナで自粛をしていた方も徐々に通所再開してきているという話は聞いている。緊急事態宣言での自粛時に、通所で行う作業キットを、ご自宅で作業する対応を行ったとの報告を受けている。当初は感染症対策用の衛生用品等は東京都支給のマスクをはじめ、手袋等の配布を行っていた。目黒区でも独自に事業者へ衛生用品の購入のための給付金やPCR検査を受けるための補助等実施している。現在物価高騰が続いている現状から、通所や入所の事業所に定員に応じた給付金を支給している。

**委員**

感染症に対して各事業所の対応がバラバラであり、区内での事業所間の連携の場がないように思う。障害者の情報共有等、事業所で情報の格差があり、感染症に対しての東京都の補助は継続して行われている。テレワーク関係では国の補助も活用できるものもある。新型コロナワクチン接種の予約に、目黒区はLINEを使用しているが、情報共有のネットワークに共通の媒体等で協議会を通して勉強することにより高い支援に繋がると思う。色々な方法論を学ぶ機会があればと思う。

**会長**

横のネットワークはコロナで滞ったが、逆に強まったということもある。基幹相談支援センターもあり、目黒区でのネットワークづくりに貢献できることを期待する。

(2) イベント実行委員会の進捗状況について

事務局から資料3に沿って説明を行った。

**会長**

今の報告について何かあるか。

**委員**

7～9月にかけ3回のイベント運営会議を開催している。決定事項は概ね資料3の通りである。今回のイベントの内容はパネル展示の他、相談ブースを設置し、障害に関する相談を受けたいと話している。自立支援協議会運営会議にて副会長からのアドバイスを受け、パネル展示での各専門部会のポスターに事業所名を載せ、事業所のPRにしたいと考えている。次回イベント実行委員会で各専門部会のポスターの進捗状況を確認する予定である。

**会長**

イベントについて何か質問等あるか。新型コロナウイルス感染の影響について区報の施設の取材で少し触れているのか。

**事務局**

区報に関して、現在、第一報が出た段階では、掲載内容が、当事者の施設での1日の生活の流れや、当事者の保護者や施設職員がどんな思いでいるのかという紹介が中心になっているため、コロナ

に関する内容の掲載は、字数の関係もあり難しい。

#### 会長

高齢GH部会や意思疎通支援部会のポスターにコロナのことを入れる予定ということか。他にはいかがか。パネル展示等に関してどうか。

#### 委員

相談ブースの設置があるが、イベント運営会議議事録でも確認したが、相談ブースは、実際に困っている人の相談に対応するイメージなのか、自立支援協議会に関係する相談に対応するのか、その両方について対応できる人を相談対応者という内容も書かれていたが、相談内容が明確でないと、対応者は不安ではないかと思うが、どう考えているか。

#### 委員

それほど難しくないと考えている。各専門部会からイベント当日の人員として、最低1人を見込んでいるため、ある程度対応可能かと考えている。その場でお答えできない相談内容は、後日回答する対応をとればと考えている。次のイベント運営会議で検討する。

#### (3)区からの報告

- ・令和4年度 障害者週間記念事業「めぐろふれあいフェスティバル」の開催について
- ・障害者計画の改定スケジュール等について

障害施策推進課長から資料4・資料5に沿って説明を行った。

- ・「医療的ケア児の保育園入園に関するガイドライン」の策定について
- 子育て支援課長から資料6に沿って説明を行った。

#### (4)専門部会からの報告

##### 相談支援部会

資料7 参照

##### 高齢化・グループホーム対策部会

部会活動が再開し委員の顔合わせと今後についての話し合いが行われている。高齢化に直面した課題を共有し、協議の元に対策について検討をしていく。不十分な社会資源の埋め合わせや改善について1つずつ話し合う必要があると皆が共通認識を持ったところ。介護保険も関係しており、障害福祉サービスとの違いや両方をうまく活用する知恵が現場には出ている。介護保険事業をされている方や関係する方にも話し合いに参加していただきたいと考えている。

##### 一般就労部会

資料7に補足。就労支援センターの持っている情報やスキルをできるだけ部会員と共有できるよう動いている。事前アンケートから抽出した疑問等について、就労支援センターが資料やテキストを作成し、意見交換を行っている。内容的には少し活性化してきているので、多忙で部会への出席がしにくい事業所への働きかけを今後も行っていきたい。

##### 施設就労部会

8月に第1回の部会を開催し、来週第2回の部会を開催する。障害者計画改定の話も部会内でしていきたいが、会場の都合により開催時間が1時間しかない。各事業所の現状報告や課題の共有というところに留まる可能性もある。

##### 子ども部会

令和3年8月以降毎月1回ずつ開催している。9月は防災についてシミュレーショングループワークを行った。10月12日は光明学園が見学を受け入れてくださり、丁寧に対応をしていただいている。

来週の子ども部会ではコミュニケーションソーシャルワーカーをされている方をお招きして、業務内容について伺い、質疑応答を予定している。

#### **意思疎通支援部会**

意思疎通支援部会を構成する4つの会としての集まりは、未だ行っていない。部会員が集めてくれた情報は把握している。

#### **防災部会**

防災部会は活動を再開し、新たな正会員と部会長を決定した。第1回防災部会において、11月後半ごろに要配慮者支援・対応を学ぶというテーマで講演会の開催を決定した。障害施策推進課長に講師を依頼し、対面による管理者と区とのやり取りや質疑応答を1時間半で企画をしている。

#### **会長**

BCPの作成が来年から義務化される。目前に迫ってきたが、防災部会から意見を伺いたい。

#### **防災部会**

BCPのテーマをやろうと思っていたが各々の考えや進捗具合にばらつきがある。まずは区全体の考え方、要配慮者の動きや個別計画のプランを理解していくところから始めて、自分たちが行動計画を見直すきっかけになればよい。

### **3 その他**

#### **委員**

現場の方から事例が出ている。特殊なケースや対応では、今までに無かった事例や新しい取り組みが発生する。事業所が抱えすぎて解放する場所が無いと職員がドロップしてしまう。機会があれば時間を取って経過を追って行き、制度の狭間に埋もれてしまう当事者や区民の方のためどうしていくかを話し合っていける場になれば良いと思っている。

#### **会長**

色々な形で進んでいる部分や新たに課題ができた部分、制度の谷間も含めて活発な議論を自立支援協議会の本会でもしていただきたい。専門部会から運営会議に上げ、運営会議から本会へ行く基本的な流れがあるので、事例なども是非部会の方から上げていただきたい。

#### **副会長**

中長期を見据えないと何でも後追いになってしまう。これからの社会は理系になり、ICTやデジタルトランスフォーメーションを強化しなければならない。当事者の就職や自立支援でも活用することを勉強会レベルでも良いので視野に入れていかなければ、世の中が先に行ってしまった後では遅い。これから来るであろう事を想定した活動も自立支援協議会で行っていても良いと思った。

#### **会長**

事業を経営している側として耳の痛い話。Zoomでコミュニケーションを取られている方に聞くと最初はすごいねと思っていたけど、これからは障害のあるなしに関わらず当たり前になり、世の中についていけなくなる。アクセスできない方のフォローをどうするのかも常に課題になる。多様な意見の中に5年10年、20年先の事業はどうなっているか。真剣に考えなければならず、そのような意味でもコロナは大きな影響力を持っていた。

### **4 閉会**

今回は令和5年2月10日(金)18時から

開催1ヶ月前を目途に通知をする